

メッセージアウトライン 創世記9:8～17「虹の契約」

[8]「神は、ノアと、彼とともにいる息子たちに仰せられた」

9～17節までの神の契約のことばはノアだけではなく、息子たちにも告げられる。6:18節ですでに神は契約のことをノアに仰せられていたが、その契約はノアだけではなく、その家族の一人ひとりが含まれていることを教え、神への特権と責任のある者としての自覚を持たせる。

[9-10]「見よ。わたしは、わたしの契約をあなたがたとの間に立てる。そして、あなたがたの後の子孫との間に。また、あなたがたとともにいるすべての生き物との間に。鳥、家畜、それに、あなたがたとともにいるすべての地の獣、箱舟から出て来たすべてのものから、地のすべての生き物に至るまで」

この契約はノアとその子孫だけではなく、箱舟から出た動物たちとその子孫にも関わりがあった。なぜなら動物も神によって造られた被造物であり、神はこれらの被造物をも心に留めておられるからである。→ヨブ38:39～41, ヨナ4:11, マタイ6:26, 10:29

[11]「わたしは、わたしの契約をあなたがたとの間に立てる。すべての肉なるものが、再び、大洪水の大水によって断ち切られることはない。大洪水が再び起こって地を滅ぼすようなことはない」

「大洪水」ということばが二度使われているが、最初の「大洪水」には定冠詞がついており、それはこのたび全地を覆い、すべての生き物を滅ぼしたノアの大洪水のことであり、それはもう再び、すべての肉なるもののいのちを断ち切るようなことはないという意味であり、あとの「大洪水」は定冠詞はついておらず、それは今後すべての生き物を滅ぼす同じような大洪水は起こることはないという意味である。しかし、局地的な洪水は起こる。それは、その後の歴史が教えていることである。

[12-13]「さらに神は仰せられた。『わたしとあなたがたとの間に、また、あなたがたとともにいるすべての生き物との間に、代々にわたり永遠にわたしが与えるその契約のしるしは、これである。わたしは雲の中に、わたしの虹を立てる。それが、わたしと地との間の契約のしるしである』 神は目に見えるしるしを保証として与えられた。それは将来のすべての世代が、直面しなければならない多くの試練や問題の中で神の契約をいつも思い起こし、確信をもって立つことのできるためのしるしである。そのしるしとは「虹」であった。人の手が全く届かない所にある虹が契約のしるし。それがこの契約の性格をよく表わしている。すなわち、自然界の運行の正しさが神の祝福の保証なのである。一般の契約では相手の守るべき条項があり、相互に責任を負うべきものであるのに、ここでは人に何も求められていない。主導権が神にあるだけでなく、すべての条件もまた神にある。人間はただ神の意志を受け入れ、それに合意するもので、人間の側にその内容について異議をささむ余地はない。それゆえこの契約において強調されているのは、人間の意志に先行する神の恵みなのである。雲を背景に太陽の光を受けて映し出される美しい光景は神の恵みを示すものとしていかにもふさわしい。しかし、この契約は「わたしと地との間の契約」とあるように、地の続く限りという限界があることも覚えておかなければならない。

[14-16]「わたしが地の上に雲を起こすとき、虹が雲の中に現れる。そのとき、わ

わたしは、わたしとあなたがたとの間、すべての肉なる生き物との間の、わたしの契約を思い起こす。大水は、再び、すべての肉なるものを滅ぼす大洪水となることはない。虹が雲の中にあるとき、わたしはそれを見て、神と、すべての生き物、地上のすべての肉なるものとの間の永遠の契約を思い起こそう。』」

これらのことばは、神が雲の中の虹を見て永遠の契約を思い起こされるように受け取れるが、これは擬人法であり、神は忘れるようなお方ではなく、いつも契約を心にかけておられるお方である。虹は厳密には神のわざであり、虹を現わされる神が、その虹をしるしとする契約を忘れることはない。虹は神よりも、それを見る人間のためであり、虹を見て神の契約の確かさを確認するために人間に与えられるのである。

[17]「神はノアに仰せられた。『これが、わたしと、地上のすべての肉なるものとの間に、わたしが立てた契約のしるしである。』」

神のさばきである大洪水によって当時の墮落し、暴虐に満ちていた(6:11)世界は滅ぼされたが、ノアの八人の家族と箱舟から出て来たすべての生き物との間に結ばれた契約のしるしが虹であった。もはや大洪水によって地が再び滅ぼされるようなことはない。この地が続く限り、種蒔きと刈り入れ、寒さと暑さ、夏と冬、昼と夜がやむことはなく、自然界は正しく運行されていく(8:22)。人はこの神との契約を虹を見るたびに思い起こすことができるのである。ここで神は神と被造物との恵みによる新しい関係を力強く宣言されているのである。

しかし、この地もやがて過ぎ去るときがやって来る。→マタイ24:35,黙示録20:11,21:1

ノアの時代のように人の罪と悪が増大し、地が暴虐に満ちるとき、再び神は世界を滅ぼされる。それは大洪水ではなく火によるさばきであり、最終的なさばきである。

→Ⅱペテロ3:9~11

今、神は忍耐してご自分のもとに人が自分の罪を悔い改めて立ち返るのを待っておられる。神の忍耐を軽んじてはならない。→マタイ4:17,ルカ5:32,使徒3:19,ヨハネ3: